

青森のわけもの達

地元を盛り上げる
若者達って何してる??



取材先
Aomori and you /
unun うぬうぬ

三上未夢さん

UNUNとは、青森の若者のコミュニティである。知識や経験はまだ積んでいる途中であるものの、地元青森で漠然と何かしたいという二十代が集まったものだ。

UNUNを立ち上げたのは、弘前市出身の三上未夢さん。三上さんが県外から青森県にUターンしてきたある日、「Uターンした同士で集まったら面白そう!」と思ったことがきっかけでUNUNメンバーは集まった。三上さんは、同年代でUターンしてから経営者をしている人やYouTubeをしている人にダイレクトメッセージで「会いませんか?」と話しかけたという。誰かが「会おう」と言わなければ知り合うことのなかったはず、会うことさえなかったはずの人達と会うきっかけを三上さんはつくったのだ。



UNUNメンバー(三上さん提供)

イベントを通して経験を積む

コミュニティ創設から三か月後(2022年8月)、三上さんの企画・運営で、初のイベントとなる「UNUS SELECT」青森の次世代を担う若者たちによるマルシェ&フリーマーケットを開催。メンバーによるハンドメイド作品や古着を販売し、お盆で帰省する大人へ、青森の若者の可能性をアピールした。

第二回目のイベント「おとなの文化祭」UNUS SELECT vol.2」では、運営の一部をUNUNメンバーが担当し、ポスター制作や企画会議で意見を出し合った。そして第三回目のイベント「#服好きな人と繋がりたい」UNUS select vol.3」は、メンバーが主体の実施とな

り、盛り上がりを見せた。イベントの回数を重ねるごとに、自分の店を持つこと、企画に携わること、イベントを運営することを、UNUNメンバーは経験した。

いずれ自分の店を持ちたいと思っている人や、本業とは別に自分のやりたいことを胸に抱く人が多く所属するUNUN。イベントが、様々な経験を積む機会になればと三上さんはいう。

UNUNは、会社でも団体でもないコミュニティであるからこそ、目標はいらなくいと三上さんは考える。友達でも仕事仲間でもなく、自分のやりたいことを自由に話し、何かあった時に助け合える関係をつくりたいという。このような居場所があることによって、彼らは人生の幅を広げていくことができるのだ。

「青森にホテルを作る!!」

三上さんは、UNUNとして活動する傍ら、ホテル開業の夢を実現しようと奮闘している。

彼女が19歳の頃、Dream Noteに書いた「青森にホテルを作る」という目標。これが始まりで



ホテルの様子(三上さん提供)

現在、2024年春オープンに向け、準備を進めている。今では3冊目になるDream Noteには理想とするホテルの構造、人生計画など、数えきれないほどたくさんさんの夢が詰まっていた。三上さんは、大学でホテルの勉強をし、その後も修行のため京都のホテルに就職。「地位や経験もある状態で青森に戻りたいが、一人前になるにはまだまだ時間がかかる。早く青森でホテルをつくりたいのに、修行しなければいけない。」という葛藤の日々。そんなある日、シェアハウスのオーナーに言われた一言がきっかけで青森に帰ることを決意。翌日に退職届を出して青森へUターンし、現在に至る。



第二回イベントの様子(三上さん提供)

ホテルOTTABIO

三上さんの作るホテルOTTABIO(オタービオ)は、岩木山の麓の村・百沢地区に立つ。岩木山神社や百沢スキー場、数々の温泉スポットなどに囲まれたここは、青森の自然も文化も体験できるこだわりの場所だ。

このホテルの特徴は、一日一組限定の宿だということ。これもまた「一人一人のお客さんに合わせたサービスをしたい」という三上さんのこだわりだ。地元の案内人による体験ツアーや、青森の食材を存分に楽しめる食事などがそれぞれに用意され、ホテルを拠点として青森の土地・人に出逢える空間が用意されている。また、アメニティなどは環境に良い青森で製造・販売されているものをメインに揃えられていた。これらのこだわりには、観光地として地元青森にお金を落とすに欲しい、価値ある県産品を価値の分かる人にとって欲しいという思いも込められている。



リビングルームのイメージ図



ベッドルームのイメージ図

青森の大学生に向けて(三上さんから)

「一度就職した会社に囚われないで欲しい。大切なのはどんなスキルを身に付けたいか。あとは海外旅行に行つて経験値を上げてみよう!」

編集後記

今回の取材で、地元を盛り上げるために様々な面から奮闘している青森の若者達が大勢いることを知った。この記事を読んでくれた方々が青森を盛り上げる活動に参加したいと思ってくれたら嬉しい。

